

第 1 講

ペンテコステの遺産：聖霊のバプテスマ

ロバート・P・メンジーズ

はじめに

約 100 年前、その教会(ストーン教会(シカゴ))には一群のペンテコステ派の人々が集まった。しかし、彼らに目を留めた人々は、世界広しといえども、ほぼ皆無であった。彼らの存在を知った人々の中には、その大胆な宣言を笑うだけの人々もあったに違いない。この「市井の」人々の小さな群れは、驚くべき目標に専心していた。それは「世界史上で最も優れた伝道」というものだった。

そして奇跡が起こった。彼らは出て行き、それを成し遂げたのである。聖霊によって力を与えられ、イエスの御名を高く掲げることに集中していたこの小さな群れは、世界中で何億人という人々にインパクトを与える運動を主導してきたのである。このインパクトはあまりに甚大で、一人の研究者などは、現代ペンテコステ運動を、「前世紀で最も大きな成功を収めた社会運動」と名づけている¹。

この大胆な宣言の 100 周年を祝うに際しては、共に少し立ち止まり、この優れた宣教運動を生み出した神学上のコミットメントに思いめぐらすことがふさわしいと考える。日本にある私たちにとっては、中央聖書神学校の開校を記念するとともに、この学校によって素晴らしく祝福されてきている、優れた教会運動を祝いたい。このこともまた、日本におけるペンテコステ運動の豊かな遺産に思いをめぐらす良き機会を提供するものとなっているのである。

このペンテコステ運動に連なり、私たちの先駆者たちが残してきてくださっている重要な遺産を、私たちは思い出し、さらに思いを深めていくべきである。

私は信じている。この神学と宣教の遺産は、核となる三つのコミットメントを中心とするものである。なるほど真の中心が、イエスに対する情熱的な愛と、あらゆる部族と国からの人々がイエスを礼拝するのを見たいという熱い願いであることは言うまでもない。しかし、世界中のクリスチャンが分かち合っているこの根本的なコミットメントに加え、この新しい運動を形成してきた確信としては、それに特有のものとして次の三つが存在する。

1:彼らには、聖書、特に「使徒の働き」を読むうえで特別な読み方があった。すなわち「使徒の働き」を、自分たちの歩みと働きの模範として読むという読み方である。彼らは、使徒たちと初代教会の物語は、現代の教会の模範として役立つものだ確信していた。「彼らの話は私たちの話である」というわけである。それゆえ、アズサ街のリバイバルは「アポストリック・フェイス・ミッション(直訳:使徒的信仰の宣教団)」で集会を持ち、初期のペンテコステ派の人々は使徒的信仰

¹ Philip Jenkins, *The Next Christendom: The Coming of Global Christianity* (Oxford: Oxford University Press, 2002), 8.

について語るのを好んだ。この「使徒的信仰」という言葉は、彼らと初代教会、それに「使徒の働き」のページとの結びつきを強調するものであった。まさに「彼らの話は私たちの話」だったのである。

2: 私たちペンテコステ派の先駆者たちはまた、聖霊のバプテスマに対して特別な理解を抱いていた。彼らは、聖霊のバプテスマは宣教のための賜物、すなわち奉仕のために力が与えることなのであり、回心と等しいものとするべきではないと確信していたのである。使徒 2 章は、教会の誕生の物語でも、弟子たちの新生の物語でもない。それは地の果てへとつながる教会の宣教の大物語の始まりなのであり、まさにイエスの物語の継続なのである。このため、彼らは、自分たちを召してくださったイエスがまた、その召しを全うするための力を与えてくださるものと確信していたのである。

3: 最後に、私たちペンテコステ派の先駆者たちは、異言を語ることに、この宣教的な力の賦与である聖霊のバプテスマのしるしだと強調していた。彼らにとって、異言を語ることは重要なことであった。なぜなら(1)それは、聖書へのペンテコステ的アプローチ、すなわち「彼らの体験は私たちの体験であり、彼らの物語は私たちの物語である」という姿勢を象徴するものであり、確証させるものであったからである。(2)また、彼らの宣言していたことによれば、異言を語ることで、自分たちが何者であるかを思い起こさせられる — すなわち、自分たちは、イエス・キリストの福音を地の果てまで携えていくべく、終わりの世にあって召され、力を与えられた預言者の群れにほかならならないのだということを思い起こさせられる — というのである。

この朝、私はペンテコステ派が聖霊のバプテスマをどのように理解しているかに話を絞りたいと思う。教会 — 私たちの教会 — は、ペンテコステ派が提示している使徒的な召しと力に対する感覚をあらためて再認識する必要がある — 私はそう信じている。

数年前のこと、ある中国の家の教会のリーダー(例に漏れず迫害の対象となっている)がこう語った。「外国のクリスチャンが『使徒の働き』を読む時には、励まされる話として読むことだろう。しかし、中国のクリスチャンはそこに、自分たちの歩みを見るのだ」。この友人の言葉を聞いて、私も迫られるものがあった。私たちは「使徒」の物語を、このような切迫感と憧憬をもって読んでいるだろうか。このような結束感と飢え渴きをもって読んでいるだろうか。私の切なる祈りは、私たちもまたそのような思いで読む者になりたいということである。主よ、そのようになりますように。

この朝、私は、皆さんもまた、「使徒」のページを模範となさるようにお勧めしたい。私たちペンテコステ派の先駆者たちの理解は正しかったのだということを示し、皆さんを励ましたいと思う。聖霊のバプテスマを、誰もがいただくことのできる、宣教のための力の賦与だと語った先駆者たちの理解は正しかったのである。

私の信じているところでは、ルカの福音書の二つの箇所が、独特な形で、聖霊のバプテスマの宣教的な目的を強調している。最初の箇所はルカ 10:1-12、16 であり、第二の箇所は、ルカの福音書の最後にあたる 24:44-49 である。

1: 聖霊のバプテスマ: 預言者の共同体 — 70 名の派遣: ルカ 10:1-12、16

12+70=? (ルカの計算では 82 以上になる: 神の民の全員)

ルカ 10:1-12、16 を読んでみよう。

この箇所は、私たちがイエスの代理であることを思い起こさせてくれる。

・この箇所を私たちに関わりのある箇所だとは考えない傾向 — どのみち、これは使徒たちであり、選ばれた人々の群れなのだ、という考え

そして、彼らは病人をいやし、奇跡的なことを行うよう頼まれている……。これが本当に私たちに関係があるというのか。この問いに対しては、過去 100 年間、「否」と言ってきた教会がほとんどである。しかしながら、この箇所は、よく見れば見るほど、私たちに語りかけてきているものであることがわかる。

・この箇所を見ていくと、二つの問いが飛び出してくる。

1: イエスがお遣わしになったのは何人か(70 名か 72 名か: 中国語和合本(CUV)は 70 名、新国際訳(NIV)は 72 名)。

2: ルカがこの記事を含めたのはなぜか。ルカ 9 章では 12 名の派遣、ルカ 10 章では 70 名の派遣(これを記録しているのはルカのみである)。

— まずは数字の重要性から見てみよう。

・「12 名」の選びは偶然ではない: 再構成されたイスラエルを表している(創 35: ヤコブの 12 人の息子たち)。

・「70 名」の選びもまた、偶然ではない: 異邦人を含む、諸国への宣教を表している。

— 私たちは旧約聖書の背景を理解する必要がある: 民 11:24-30、とりわけ 11:29。

— 次に、ルカがなぜこの重要な物語を強調しているのかを見ていく。

・モーセの願いはペンテコステにおいて成就されている: 使 1:8 (2:17-18)。イエス、12 名、70 名、神の民の全員……私たちを含む。私たちは使徒と結ばれており、70 名と……、そしてイエスと結ばれている。ペンテコステは、私たちの預言的な働き、私たちの使命の始まりを表すものなのである。

— この箇所はそれゆえ、ペンテコステの日の宣教的性質を強調するものである。この日以来、私たちは 12 名のように、また 70 名のように、「病人をいやし、御国が近づいたことを宣べ伝える」よう召されているのである。

・初代教会のクリスチャンたちは、この箇所を次のように読んだ。これは写本の分布に現れている。エルダデとメダデ: 何人が預言しただろうか。70 名だろうか、72 名だろうか。

それゆえ、あの 12 名や 70 名のように、私たちもイエスを代表しているのである(12 名、70 名、全員)。

・これは大きな責任である。私たちは完全にはほど遠い者たちであり、時としてふさわしくないように思われるが、与えられている約束(使 1:8)を思い起こすべきである。

・リージャン(Lijiang):2,000 年前……その後に祈った……主は私たちの弱さを知っていてくださり、喜んで私たちを用いてくださる。

・ウェンシャン(Wenshan)、ディング・ニー(Ding Ni)の姉ないし妹の話:イエスの代理として働けることの特権。私たちがそれをしているというのはなんと素晴らしいことか……。 「あなたは闇夜の月光のようです。希望を与えてくださり、ありがとうございます」

ルカ 10:16 を読もう。

2: 聖霊のバプテスマ: 私たちへの預言者としての招き(ルカ 24:44-49)

ルカ 24:44-49 を読もう。

・ルカ 24 章では、イエスの死と復活の必要性が、素晴らしい形で強調されている。

- 女性たちに現れた二人の御使い:ルカ 24:5-8
- 二人の弟子に現れたイエス:ルカ 24:25-27
- 弟子たちに現れたイエス:ルカ 24:44-49(とりわけ 44 節)

この「必要性」は、旧約聖書における約束に示されていた神のご計画の、結果である。

・45-47 節が記しているのは、歴史上なされた聖書研究の中でも最高のもの:イエスは、彼らの心(の目)を「開いて」、彼らが旧約聖書の約束を理解することができるようになった。

- 旧約聖書はイエスの死と復活について語っている(46 節)
- 旧約聖書はまた、教会の使命についても語っている(47 節)。「罪の悔い改めと赦しとが、その御名によって……あらゆる国の人々に宣べ伝えられる」

イエスが彼らの心(の目)を「開いて」理解できるようにさせたという旧約のテキストはどこだろうか。

- イエスの死と復活:イザヤ 53 章(使徒 8 章のピリポとエチオピアの宦官の話も参照のこと)
- 教会の使命についてはどうだろうか。ヒントは使徒 1:8(イザヤ 49:6 も参照のこと)……「地の果て」(使 13:47 も参照のこと)
- 使徒 1:4-8 をパラフレーズしてみよう。私たちの歩みのために備えられた神のご計画は、私たちが想像できるところを超えて大きなものである……「国々への光」

・チャー(Cha)おばさん、シュイズー(Shui zu)、さらに年配の女性。

・**結論**:この教会において 100 年前、クリスチャンの小さな群れがそのような大胆な主張をすることができたというのは驚くに当たらない。彼らは自分たちが終わりの世の預言者の群れであり、イエスのために大胆な証しをすべく召され、力を与えられていたことを知っていたのである。願わくは、私たちについても同じことが語られるところとなるように。